

KINGCA week 2023, Master Class に参加して

神戸大学大学院医学研究科 外科学講座 食道胃腸外科学分野
横尾 拓樹

この度、日本胃癌学会の海外学会参加補助制度により 2023 年 9 月 11 日から13日までは Asan medical center での Master class, 14 日から 16 日までは KINGCA week に参加させていただきました。実際に参加した際の感想、現地での施設の様子などをご報告させていただきますので来年度以降の KINGCA week 参加をご検討の方々の一助となれば幸いです。

私が参加した際には COVID-19 による入国制限も緩和されており、到着した際の仁川空港内も日本人で大変賑わっておりました。1 人での海外渡航自体も初めての体験であり、英語力もおぼつかない私は、まず無事にホテルに着けるかすら不安でしたが、周囲の日本人の波に流されながら進んでいると無事ソウル駅に到着することができました。また宿泊ホテルも繁華街である明洞で予約していたため、日本語表記の看板を頼りに進み無事チェックインできました。

翌日からは Asan medical center での Master class に参加しました。ソウル市内のやや郊外にある施設であったため、ホテル最寄りの市庁駅からメロで 30 分程度、さらに降車してから約 10 分程度歩くと到着しました。集約化の進む韓国内においても随一の大病院である Asan medical center は病床数が約 2700 床あり、世界で 3 番目に大きい病院でした。ホテルのような外観で地下にはレストラン、カフェをはじめとして多数の店舗を併設しており、日本の病院とは全く違う雰囲気でした。

今回の Master class では私、私と同じ神戸大学より参加した今井先生の他に、シンガポールより女性医師が 1 名参加していました。カリキュラム初日の集合場所へスターバックスコーヒ一片手にキャミソール姿で現れた彼女に最初は面食らいましたが、英語に苦戦する我々をサポートしてくれる非常に頼もしい存在でした。また、Asan medical center では International Visiting Scholars (IViS) Program を設けており、海外留学生の受け入れも積極的に行っています。今回の 3 日間の間では中国、タイなどのアジアの他に、アラブやサウジアラビアからの留学生の姿も見かけました。

Asan medical center の手術室は計 70 室程度であり、私がお世話になった胃外科ではスタッフ、レジデントの計 10 名程度で、毎日 10 件程度の手術をこなしていました。手術内容はお執刀は主に上級医が行なっておりますが、前立ちはフェローもしくは special assistant という役割の看護師が行なっておりました。Special assistant は器械出しや外回り看護師とは完全に独立しており、手術の助手やポート挿入、閉層などを担っています。胃外科手術チームの中で最もベテランの special assistant は勤務歴が 15 年以上であり、これまで計 10,000 件の手術の前立ちをしたと言われていました。通常の胃切除術(私が見学した際には腹腔鏡がメインでした)では、術者と助手のコミュニケーションも必要最低限で淀みなく手術が進んでいきました。また special assistant の他、器械出し、外回り看護師のメンバーもほぼ固定化されているため手術の定型化及びその共有が徹底されておりました。腹腔鏡胃切除は通常縦で 3 件行われておりましたが、いずれも 17 時までには全て完了



しており、彼らのマネジメント能力の高さに驚かされました。

写真 1:Asan medical center 手術室にて
左から
筆者、今井先生、Dr.Chee(シンガポール)、
Prof. Kim, Beom-su

続いて、KINGCA week についてご報告致します。本年度の会場は Lotte Hotel Seoul であり、ソウルの中心地にあったため明洞のホテルより徒歩で会場に向かいました。私の発表は'Efficacy of 18F-fluoro-2-deoxyglucose positron emission tomography as a Predictor of Treatment Response to Neoadjuvant Chemotherapy for Gastric Cancer' であり、胃癌の術前補助化学療法の効果判定に PET-CT が有用であるという内容でありましたが、ありがたいことに口演発表に選んでいただきました。初めての国際学会であることと、冒頭から述べているように英語力に不安もあったため当日はかなり緊張しておりましたが、質疑応答でやや手間取ってしまったものの無事発表を終えることができました。

Master class、KINGCA week のいずれでも最も感じたのは他国医師の英語力の高さでした。Master class 期間中、Asan medical center スタッフに夕食に誘っていただきましたが、その際も我々に合わせ終始英語で会話をしてくれました。分からない部分があれば簡易な別の表現を用いたり、Dr.Chee の手助けもありなんとか会話についていくことができましたが、医師になってから英語を疎かにしていたことを大いに反省し、英語の重要性について再認識する良い機会となりました。

また今回の感想記の趣旨とはそれですが、異文化の地へ行くにあたって事前に知っておけばよかったと後悔したことがありましたので、それをいくつかご紹介させていただきます。一つ目ですが、韓国は儒教の影響が強く、上下関係が日本以上に厳しい国です。目上の方が話している際にじっと目を見て話を聞いていると、生意気だと捉えられ失礼になってしまうことがあるようですので、指導医の話はやや伏し目がちに聞くのが良いかもしれません。二つ目にテーブルマナーです。韓国でも食事の際に白米はよく出ますが、スプーンで食べるのが正解で、箸を使って食べるのはマナー違反に当たるようです。私はいずれもやってしまったので、お世話になった Asan medical center スタッフに失礼なことをしてしまったと反省しました。他にも、いくつか日本人が犯してしまいがちな文化的なタブーがありましたので、もし来年度以降参加される方は事前に調べておくことをお勧めします。

最後になりますが、今回このような有難いお話をいただきました、日本胃癌学会理事長掛地先生、日本胃癌学会事務局の方々、KINGCA WEEK 2023 関係者・事務局の方々、また Master class にて大変親切にご指導いただいた Asan medical center の皆様に深く感謝申し上げます。



写真 2:KINGCA week 会場内にて 左から、今井先生、掛地教授、筆者